









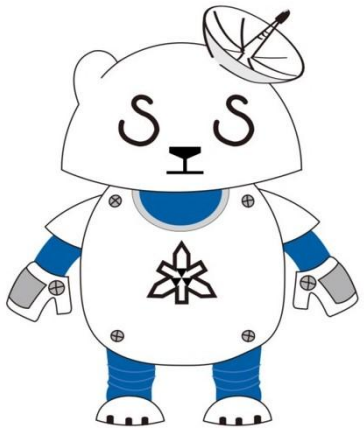




Information Science School

Jyoka Style を追い求めて

大分県立情報科学高等学校　　校長　橋本　武晴



＜本日の内容＞

Action_０	自己紹介
Action_１	学校改革
Action_２	ＤＸハイスクールを活用した学びの変化
Action_３	情報科学の次の学び ＮＥＸＴハイスクールによる情報科学の未来

自己紹介

橋本武晴（はしもと　たけはる）



大分県立情報科学高等学校校長
専門「工業ー機械」

◇略歴
［教諭～教頭］
大分工業、鶴崎工業など工業教育に携わる
［副校長］
中津南耶馬渓校（普通科、商業・福祉コース）
［校長］
宇佐産業科学高校（工業、農業、商業、家庭）
情報科学高校（工業、商業、情報）

Action_1
学校改革

未来へ向けた学校づくり（学校改革に着手）

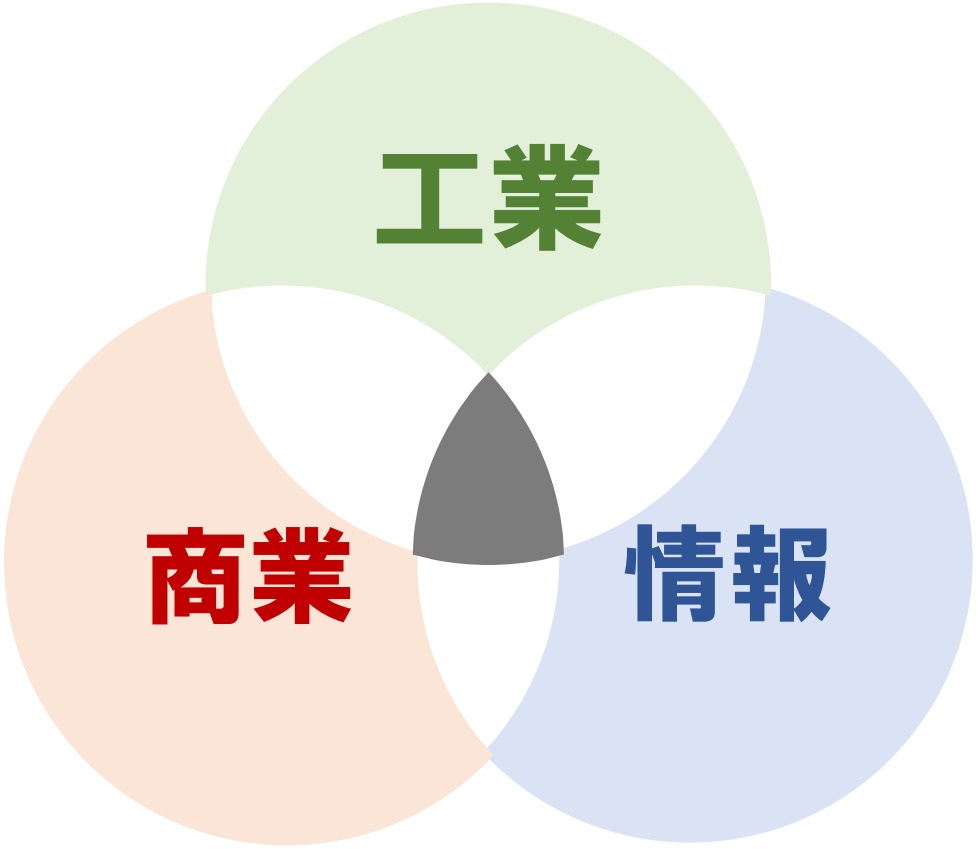
＜学校改革の主なポイント＞

１_既存の工業教育や商業教育の壁を取り除く

２_学ぶスタイルを根底から変える
（授業の主役は生徒が原則）

３_職員をやる気にさせるメソッド

1_既存の工業教育や商業教育の壁を取り除く



① これからの社会に
本当に必要な人材を作る

② 柔軟なカリキュラムを作成
工業科「マーケティング」
情報科「ビジネス」
商業科「情報セキュリティ」

※各学科の専門が指導

Action_1 学校改革

２_学ぶスタイルを根底から変える(授業の主役は生徒が原則)

①実社会でも活用されるデザインシンキングを学びに導入
目的　→生徒が思考を深める場面を多く設定

＜今までの職業系高校＞　　＜これからの職業系高校＞

言われたままのことをする　→　自分の頭で考える(イノベートできる力)

②あらゆる場面でアウトプットを意識
目的　→生徒の主体的な学びを育成

Action_1　学校改革

先生に求められるもの

ファシリテート力

「教える」のではなく、「導く」

これが Jyoka Style

Action_1

学校改革

３_職員をやる気にさせるメソッド

① 職員の適材適所を見分けて動かす

・職員との対話の中から専門性や能力を見極める

・アイデアの発端を口にする

・イノベータを動かす

② 予算交渉

・職員のやりたいことを実現させる

・時間をおかない

→職員の意識に変化

Action_2
DXハイスクール

1_教育のデジタル化の環境整備

① iMac40台導入

商業科・情報科においてデザインの学習を導入

デザインの授業の在り方（学科としての住み分け）

商業科としてのマーケティング要素の入ったデザイン

情報科としてのデジタルコンテンツ要素のデザイン

各種コンテストでの成果（献血動画、海の日ポスターなど）

② プレゼンルームの設置

アウトプットの場面として活用（プレゼンの質を向上）

各種大会での成果（政策甲子園・なるほどアイデアコンテストなど）

2_教育におけるICTの利用（その1）

① 1人1台GIGA端末の積極的活用

TeamsやMetamojiは授業での必須アイテム

（課題の提出や協働学習）

② 生成AI授業活用（生成AIパイロット校としてスタート）

生徒の主体的な利用

（積極的に使わせることで使い方の質を上げる）

アイデアや思考を深める場面でのヒントに

受験の面接対策に

就職試験の志望理由書作成に（本校オリジナル教材）

2_教育におけるICTの利用（その2）

授業スタイルを変えるきっかけにする

ICTやデジタルが100%よいというわけではない

→これまでの教育の手法の上にデジタル教育が成り立つ

＜例＞40人の多様な生徒

これらのすべての生徒に同じ情報を一方的に与えても学力の向上にはつながらない。

主体的・対話的な学びをしている学校ほどＩＣＴ機器を活用している

主体的・対話的な学びをしている学校ほど正答率が高い（全国学テより）

文部科学省の調査による

個別最適な学習にとってＩＣＴ機器は欠かすことのできないもの

もう始まっている
現在の学習スタイル

キーワードは

- 主体的な学び
- 対話的な学び
- 個別最適な学び

Action_2

DXハイスクール



生成AI(copilot)により作成

３_校務におけるICT活用の考え方

ＩＣＴや生成AIなどの技術を積極的に取り入れていく
→まずはやってみるが原則

＜例＞

①職員会議で生成ＡＩやＩＣＴ活用方法について実践事例を報告（研修）

②会議廃止および短縮のためのクラウド活用
（働き方改革と効率化）
分掌や授業進度など情報交換や意見交換は
クラウド会議

③日常にあふれる会話（情報交換）

④先生も生徒も生成AIは日常的に使う（自分で取捨選択）

分掌として　R6より未来教育研究部設置

情報科学高校の次のステップ

Action_3
NEXTハイスクール

NEXTハイスクールでの本校が育成する人材

情報をハブとした地域産業を支える高度ＩＴ人材と理数系人材の育成拠点

データサイエンスや生成ＡＩを駆使して、新しい価値を創出する意欲と能力を身に付けた「次世代ＩＴリーダー」の育成

情報活用能力と理数的素養を身に付け、データや数理的思考に基づき課題を発見・検証し、根拠のある解決策を提案・実行できる理数系人材の育成

N-E.X.T.
ハイスクール
変わる時代に、切り開く力を

全国の先導校における主な取組

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援	理数系人材育成支援	多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保
北海道札幌工業高等学校	北海道有朋高等学校	石川県奥能登未来創造センター(仮称)
岩手県立黒沢尻工業高等学校	秋田県立秋田高等学校	静岡県立静岡中央高等学校
秋田県立男鹿海洋高等学校	富山県立魚津高等学校	大阪府立大阪わかば高等学校
山梨県立農林高等学校	茨城県立つくばサイエンス高等学校	香川県立小豆島中央高等学校
静岡県立浜松工業高等学校	長野県飯田高等学校	鹿児島県立開陽高等学校
静岡県立焼津水産高等学校	岐阜県立大垣北高等学校	
愛知県立岡崎工科高等学校	高知県立高知小津高等学校	
大阪府立新工業系高等学校（仮称）	大分県立情報科学高等学校	
鳥取県立倉吉農業高等学校	熊本県立人吉高等学校	
和歌山県立和歌山工業高等学校		
愛媛県立今治工業高等学校		
佐賀県立佐賀商業高等学校		
長崎県立長崎鶴洋高等学校		
宮崎県立都城農業高等学校		
沖縄県立真和志高等学校		

情報科では
全国で唯一

工業科と商業科を
加えた独自路線を
構築

Action_3 NEXTハイスクール

施設設備



レゾナンスホール

200～300人収容できるプレゼンルーム。
フレキシブルに机椅子が移動でき、ポスターセッションも可能なデジタルサイネージシステムを配備。



リンクラボ

他校と協働で学べる配信設備空間（40人収容）。研究開発、商品開発やイベント企画など学校間連携の協働学習に活用。国内に限らず韓国・台湾などアジア圏の学校とのリモート授業として活用。国内外の様々な学校とのインタラクティブな空間の共有。



アイデアラボ

8人程度のミーティングルーム6ルーム。各ルームは中央通路側をガラス張りとし、壁一面のホワイトボード、50インチモニターを完備したミーティングルーム。（小グループでの配信も可能）。

コンベンションラボ

馬蹄形の形をした固定式の机椅子による特別会議施設。一人一人が主役の参加型授業が可能な教室（100名程度収容）。



レゾナンスラボ

40～80人が収容できるプレゼンルーム
現有設備の拡張



サイエンスラボ

地域と繋がる研究室。様々な工作機器を完備し、
地域の人々のための共同研究所。





データサイエンスラボ

高性能PCとデータサーバを置きWeb環境の構築とデータベース処理を学ぶ20人収容スペース。



ロボティクスラボ

最先端IoTやAIを用いたものづくり空間。ロボットの設計・製作・制御を行う総合技術ラボ。自律的な動作をするロボットの研究。



メディアセンターラボ

未来の図書館としての読書・資料提供機能を基盤としつつ、情報探索、編集、発信を支えるメディアセンター機能を加えた空間として整備する。書籍や電子資料に親しみながら、探究や表現活動へと自然につながる居心地のよい環境を整え、生徒が安心して集い、学びを深められる拠点。

学び

ＮＥＸＴハイスクールによる具体的な学び・学校設定科目

サイバーセキュリティ
サイバー攻撃の脅威から情報資産やシステムを守るための知識と技術を習得し、安全なデジタル社会や事業活動に貢献できる学び。ホワイトハッカーを目指す。

情報科

AIエンジニア
人間が細かく指示を出さなくても、自ら状況を判断し、目標達成に必要なステップを考えて行動するAIシステムを開発する。AIエージェントを育成する

工業科・情報科

フィンテック
高度なセキュリティを保ちながら、決済処理や銀行口座連携、取引処理などのコアシステムや、ユーザーが使うスマホアプリを開発する。

商業科

メカニカルエンジニア
ロボットの外観、骨格、駆動メカニズム（関節やギア、モーターの配置など）を設計する。 3D CADを用いてモデリングを行い、3Dプリンターや金属加工機を使って試作部品を作成・組立てし、強度や動きの検証を行う。

工業科

データサイエンス
大量のデータから数学や統計学、プログラミング、AIを活用して有益な洞察や解決策を引き出す学び。学科の特色を活かしたデータサイエンスを学習。
本校の学びの核となる。

工業科・商業科・情報科

情報×普通科目
普通教科と情報の学びを融合した教科横断型授業
情報×家庭科　情報×数学　情報×理科　等

私たちの役割

- ITの技術や知識を全国の他の学校の学びに繋げること
- 県内の普通科高校の学びを深化させること
- 地域のDX化を進めること
  IT技術の興味を広げる・地域に有益なIT人材となる

私の思い

すべては未来を生き抜く生徒のために